



桑北 スタンダード

～生徒と「共に創る」
学習活動のための手引き～

【項目】

I 桑名北高校で育みたい
資質・能力、7つの力

II 育みたい資質・能力と
教科・学年・「新学習指
導要領の3つの柱」との
関連

III 多彩な教育内容(コン
テンツ)と資質・能力
(コンピテンシー)との
関係

IV 資質・能力を使う時間
としての多彩で多面的
総合的な教育活動

V 学力定着のための3つ
のPDCAサイクル

VI 学力向上のための3年
間のストーリー

VII 生徒と共有する授業の
ための40のスタンダー
ド



桑名北高等学校マスコット
キャラクター「クワッキー」 (右)
及び
学校取組紹介PV、QRコード (左)

KUWAKITA STANDARD

～桑北スタンダードの特長を示す言葉～

- 「共に創る」授業・学校への挑戦
- 生徒と教員が共に確認可能な共通の拠り所
- 育成したい資質・能力の明確化
- 「7つの力」と「キャリア5能力」
- 「教育内容中心」から「資質・能力中心」へ
- コンテンツベースからコンピテンシーベースへ

- 新学習指導要領を見据えた授業改善
- 教育活動の「3つのPDCAサイクル」
- 学校教育活動総てでの資質・能力ベースの再整理
- 生徒の成長実感と教員の定期的検証
- 主体的に学びに向かう力の支援
- 学力定着に課題がある学校へのヒント

- 人生100年時代、生徒は「未来からの留学生」
- 学びの基礎診断を活かした丁寧な指導
- キャリア教育委員会で紡ぎ出した40項目
- 桑北スタンダードのPDCAサイクルの定着
- 桑北スタンダードの県内外への水平、横展開
- 地域課題の発見と解決のための探究と高大連携

平成30年度・令和元年度 文部科学省事業「主体的・対話的で深い学びの推進事業」における「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する実践研究(高等学校)」 成果報告物「桑北スタンダード」 三重県立桑名北高等学校 連絡先 0594-29-3616

I 桑名北高校で育みたい資質・能力＝「7つの力」



◆教育活動全体を通してつける力＝新学習指導要領の3つの柱と資質・能力との関係

- ① 適切に意思疎通を図る力 ② 良い習慣 ③ 主体的に学び続ける姿勢と力を涵養するために取り組む。
- 授業については「何ができるようになるか」という資質・能力の観点から関連付けて、次の3つのことをゴールとして定める。
- ① 知識・技能の習得（聴く力・話す力・書く力） ② 思考力・判断力・表現力の育成（読み取る力・考える力）
- ③ 学びに向かう力・人間性の涵養（前に踏み出す力・協働する力）

II 育みたい資質・能力と教科・学年及び新学習指導要領の3つの柱との関連

◎特に育みたい資質・能力 ○育みたい資質・能力	キャリア5能力					「7つの力」と新指導要領「3つの柱」との関連						
	学力	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力	聴く力	話す力	書く力	読み取る力	考える力	前に踏み出す力	協働する力
						知識・技能	知識・技能	知識・技能	思考・判断・表現	思考・判断・表現	学びに向かう力	学びに向かう力
国語	○	◎		○				○	○	◎		
地理	◎		○	◎				○	◎	◎		○
歴史	◎	◎	○	○		○		○	◎	◎	○	
公民	◎	◎	○	○					○	◎	◎	
数学	◎	○		○					○	◎		○
理科	◎			○					○	◎		○
保健体育		◎		○						○	○	◎
芸術			○	◎					◎	○		
外国語	◎	○				◎	○		◎	○		
家庭		◎	○		○					○		◎
情報		◎		○			○			◎		
ヒューマン(学)		◎	○	○						◎	◎	○
商業				○	◎				◎	○		
1学年	○	◎	○	○		○	○	○		◎		◎
2学年	○	◎		○						○		◎
3学年	○	○			◎				○	◎	◎	

Ⅲ 多彩な教育内容(コンテンツ)と資質・能力(コンピテンシー)との関係

	◎ 特に育みたい資質・能力 ○ 育みたい資質・能力			キャリア5能力					「7つの力」と「3つの柱」							「共に創る」	
				学 力	人間 関係形 成・社 会形成 能力	自己 理解・ 自己管 理能力	課題 対応能力	キャリア アブラ ニング 能力	聴く力	話す力	書く力	読み取る力	考える力	前に 踏み出 す力	協働 する力	主体的に学習に取り 組むことができ、 目指す力を獲得で きたか（生徒個人 内評価）	
	教科・科目で得た力を「使う」場面 総合的な学習の時間 「みらい」＝（総） 総合的な探究の時間 「みらい」＝（探） 特別活動＝（特） LHR＝（L） 教科活動＝（教）	実施 学年	実施 月						知識・ 技能	知識・ 技能	知識・ 技能	思考・ 判断・ 表現	思考・ 判断・ 表現	学びに 向かう力	学びに 向かう力		
1	みらいオリエンテーション（探）	1年	4月		◎	○	○		○	○					◎	1・2・3・4	
2	探究（探）	1年	4月～			○		◎		○			◎	○	○	1・2・3・4	
3	カレッジ探究（総）	2年カレ	4月～		○		◎	○		○			◎	○	○	1・2・3・4	
4	ライフプラン（総）	1年	4月～			○		◎					◎	○		1・2・3・4	
5	基礎力診断テスト（特）	全	5月・9月1月	◎		○					○	◎	○	◎		1・2・3・4	
6	遠足（特）	全	5月		◎	○							○		◎	1・2・3・4	
7	自転車運転に関する講習・実技（特）	1年	5月	○	◎	○			◎				○			1・2・3・4	
8	若年卒業生との懇談会（総）	2年	5月			○		◎	◎		○			◎		1・2・3・4	
9	進路のしおり学習（総）	全	5月～	○				◎				◎	○	○		1・2・3・4	
10	みらいセミナー事前指導（総）	2・3年	5月		○	◎			◎				○	◎		1・2・3・4	
11	みらいセミナー（総）	2・3年	6月		○			◎	◎				○	◎		1・2・3・4	
12	体育祭（特）	全	6月		◎	○			○	○			○		◎	1・2・3・4	
13	北高祭企画（特）	全	6月～		◎		○		○	○			○	○	◎	1・2・3・4	
14	実力診断テスト（特）	1・2年	6月・10月	◎		○					◎	○	○			1・2・3・4	
15	インターンシップ事前指導（総）	1年	6月～		◎	○			◎	○			○			1・2・3・4	
16	修学旅行準備（特）	2年	6月～		◎	○			○				○		◎	1・2・3・4	
17	科目登録説明会・科目登録（L）	1・2年	6月～			○		◎	◎		○	○		○		1・2・3・4	
18	クラスマッチ（特）	全	7月・3月		◎	○							○		◎	1・2・3・4	
19	分野別説明会（総）	2年	9月			○		◎	◎				○	◎		1・2・3・4	
20	防災・SDGs学習（総・探）	全	9月他			○	◎					○		◎	○	1・2・3・4	
21	3年先輩講話（総）	1・2年	10月			○		◎	◎	◎			○	○		1・2・3・4	
22	後輩へのメッセージ（総）	3年	10月		○	◎					◎		○			1・2・3・4	
23	インターンシップ（総）	1年	11月		◎		○	○	○	○			○	◎	◎	1・2・3・4	
24	修学旅行（特）	2年	11月		◎	○			○			○	○		◎	1・2・3・4	
25	北高祭（特）	全	11月		◎		○						○		◎	1・2・3・4	
26	人権講演会（特）	全	11月		◎	○	◎		◎				◎	○		1・2・3・4	
27	分野別見学会（総）	2年	12月		○			◎	◎				◎	○		1・2・3・4	
28	主権者教育（特）	2年	12月		◎		○		○				◎			1・2・3・4	
29	ことばの花束（総）	1年	1月～		◎	○					◎		○		○	1・2・3・4	
30	卒業生との懇談会（特）	1年	1月		○	○		◎	◎				○	○		1・2・3・4	
31	0学期指導・ステップアップシート（特）	1・2年	2月			◎	○	◎			○		◎	◎		1・2・3・4	
32	マラソン大会（特）	1・2年	2月		○	◎							○	◎		1・2・3・4	
33	レベル別学習説明会（教）	1・2年	3月	◎			○	◎	◎				○	◎		1・2・3・4	
34	分野別体験授業（総）	1・2年	3月			○		◎	◎				○	○		1・2・3・4	
35	朝学（教）	全	通年	◎	○				○		○	○	◎			1・2・3・4	
36	部活動（特）	全	通年		◎	○	◎						○	◎	◎	1・2・3・4	
37	定期考査（教）	全	通年	◎		○					◎	○	◎			1・2・3・4	
38	MS活動（特）	全	通年		◎	○			○		○	○	○	◎	◎	1・2・3・4	
39	D3学習会（教）	全	通年	◎		○	○		◎				○	◎		1・2・3・4	
40	各種式典（入学式・卒業式等）	全	通年		○			◎						◎	○	1・2・3・4	

個人内評価について 1＝できなかった 2＝あまりできなかった 3＝できた 4＝かなりできた

私が3年間で身に付けた力

年

組

席

名前

Ⅳ 資質・能力を「使う」時間としての多彩で多面的・総合的な教育活動



総合的な探究の時間「みらい」

平成13年、まだ、世の中に総合的な学習の時間の実施例がなかった時代に国の教育課程研究指定事業として開始、多彩な外部講師活用、インターンシップ、ポートフォリオなど活用して開発、現在の総合的な探究の時間に引き継がれてきた。



みらいセミナー

「みらい」の中の最大のメニュー、企業・大学・官公庁等が本校体育館に一堂に会する。各ブースで本校生徒2、3年生に説明。生徒は進学・就職の方向性を見極める。昨年度キャリア教育文部科学大臣表彰につながった取り組み。生徒のボランティアも好評で、企業等からの評価も高い。



コミュニケーション授業

桑名市との協同事業「わくわくコミュニケーション」、年間通じて園児と高校生の1対1の継続的交流、クラス全員が同じ保育所へ、ペアを組みコミュニケーション力を高める。子育て支援と自己肯定感を高める道德教育としても高い評価を得ている。



学んだことの
意義を実感する
多彩な教育活動

総合的な探究の時間『みらい』とSDGs

◆総合的な学習の時間『みらい』を受け継ぐ、総合的な探究の時間『みらい』で時間設定し、1学年全員が自分の課題意識と社会課題をつなげ、高校生活のすべての学習諸活動をSDGsのカテゴリーと結びつける意識を持ちます。インターンシップなどの地域社会体験を通じて、地域の課題を知り、自分の興味関心とつなげるとともに、それらの地域課題と国際的な社会課題とをつなげます。

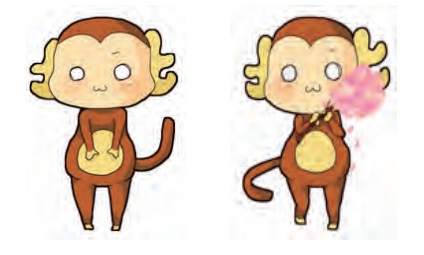
3年間の総合的な学びとポートフォリオ

◆生徒全員が学びの「手帳」を持ち、学びの記録を残します。手帳には、SDGsの17の目標を絶えず意識するように「世界を変える17の目標」のカードを挟み込んでいます。高校生活の総合的・多面的なあらゆる学習活動を通じて、自分と社会をつなげます。探究の時間だけでなく、学校行事を含めた高校3年間の活動を通じて、身に付けるべき資質・能力と社会課題との関係性を学びます。

高連携

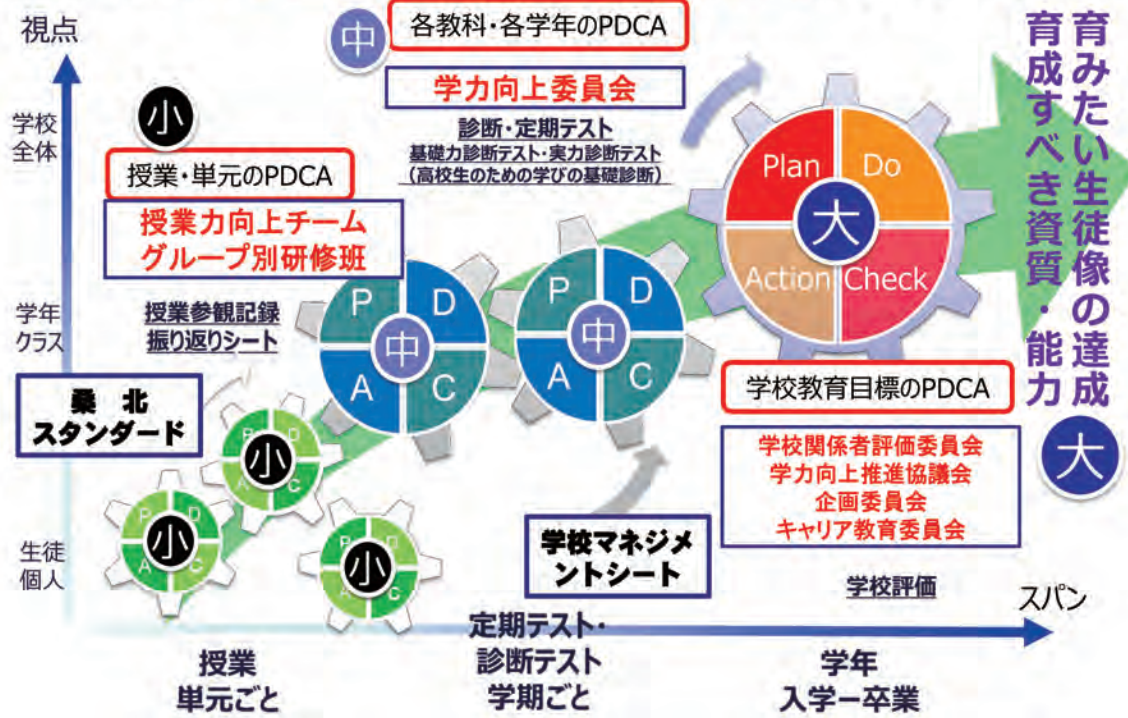
探究活動を通じて、防災や子育て等地域の持続可能性に係る課題、社会課題を考えるために、2つの大学と連携し、相互に学ぶ機会を持ちます。

【連携先】四日市大学・ユマニテック短期大学
(令和2年度から実施予定)



V 学力定着のための「3つのPDCAサイクル」

● 全教職員で「小」「中」「大」それぞれのPDCAサイクルを回すカリキュラム・マネジメント



小サイクル＝授業

「桑北スタンダード」に集約される本校の学びのスタイルの実施と評価、改善。授業力向上研究チームによる授業公開研修等、最も基礎となるサイクル

中サイクル＝テスト

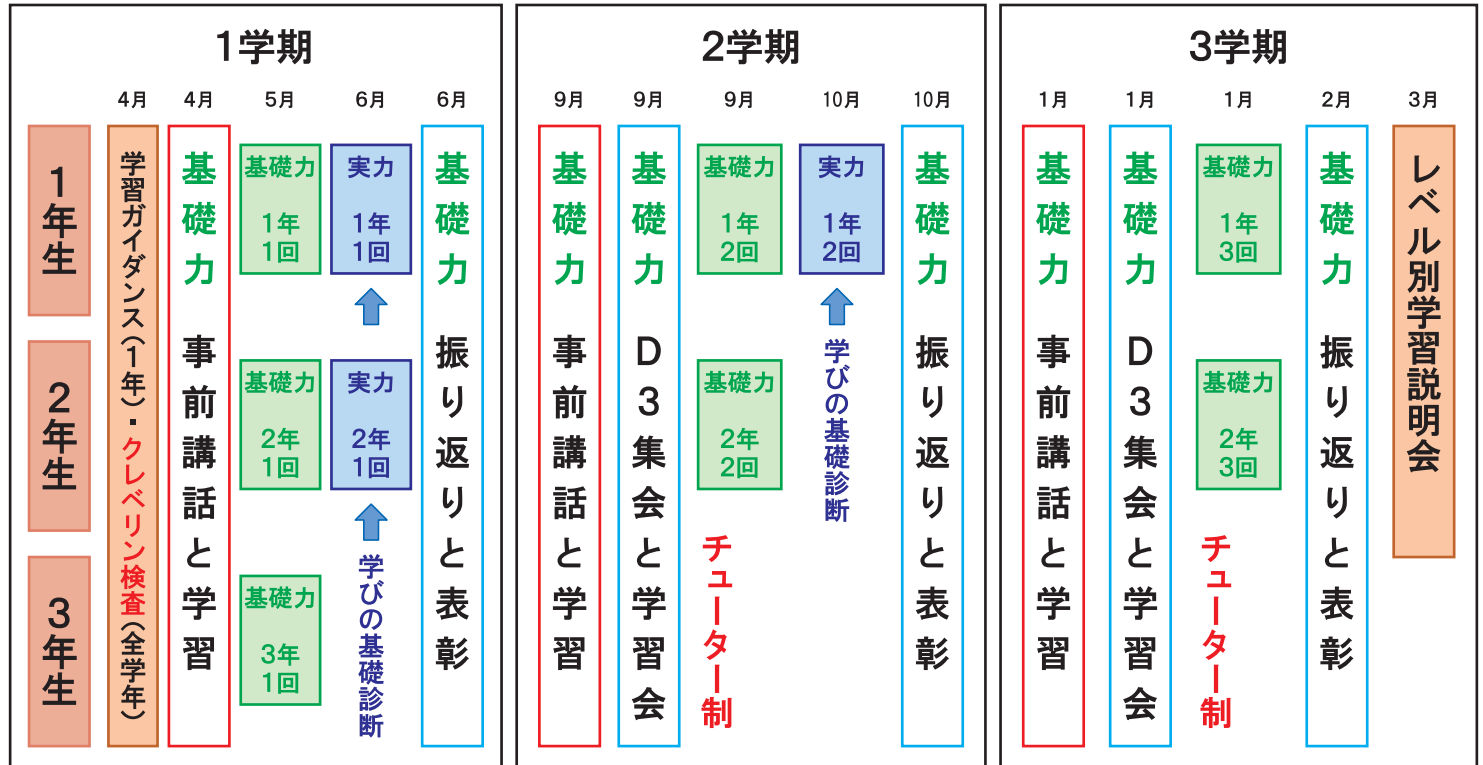
各教科・学年のPDCA、学力向上委員会による基礎力診断テストの事前・事後学習・表彰・学習会等の進捗管理を行うサイクル

大サイクル＝学校組織

企画（戦略）委員会、キャリア教育委員会と学力向上推進協議会、学校関係者評価委員会等外部有識者による学校経営全体の進捗管理のPDCA、事業報告及び学校マネジメントシートでの進捗管理を行うサイクル

	名前	所属	役職	役割
学力向上推進協議会	岩崎 恭典	四日市大学	学長	委員長（事業全体の統括・評価）
	鈴木 建生	ユマニテク短期大学	学長	授業改善への指導・助言
	赤沢 早人	奈良教育大学	教授	カリキュラム・マネジメント指導
	徳岡 卓也	(株)ベネッセコーポレーション	支社長	実践事例の紹介・助言

VI 学力向上のための3年間の学力伸長ストーリー（PDCA「中」サイクル）



学力的に困難を抱え、学業に前向きに取り組めない生徒が一定数在籍する。そのような生徒たちに「やればできる」という実感を与えつつ、授業に真摯に向き合う雰囲気づくりのために(株)ベネッセコーポレーションの2つのツールを学力向上の軸に置いた。

基礎力診断テストは生徒の実態把握と自己肯定感向上を、実力診断テストは教員の授業改善と新学習指導要領の新しい学力観に対応することを主たる目的としている。クレペリン検査は生徒の個性を把握して、指導方法を学ぶツールとして実施している。

これらの外部テストを生徒の自信や学力向上につなげ、普段の授業にも活かせるように工夫している。

授業へ向かう前に

主体的な学び

対話的な学び

深い学び

基準 1 = できなかった 2 = あまりできなかった 3 = できた 4 = かなりできた

授業記録	()年()月()日	()時限	授業者【	】
------	--------------	-------	------	---